

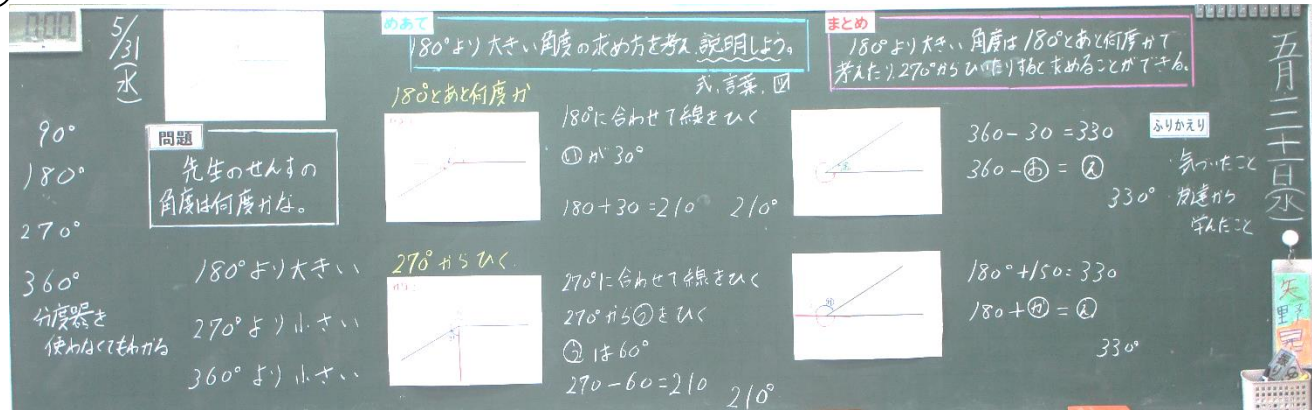
5月31日(水)は、津田先生による算数科の研究授業でした。本単元は、角の大きさについて単位と測定の意味を理解し、分度器を用いて角度を測定したり、角や三角形をかいたりする学習をしました。本時は、既習事項や見方・考え方を働かせて180度より大きい角度の測定の仕方を既習の180度や360度を活用して求める学習でした。本時の授業と事後研究の様子をお知らせします。

単元名 「角の大きさ」 (東京書籍) 全9時間

4年2組 津田 友貴 先生

本時の目標：180度より大きい角度の測定の仕方を、既習の分度器を用いた角度の測定の仕方をもとに説明することができる。

本時における見方・考え方：図形の角の大きさに着目し、角の大きさの測定方法について考察する。



本時の板書5/9



津田先生による授業のリフレクション

今回の研修を通して、①児童に発問した際には途中で止めず最後まできくこと、②「解決方法の見通しをより具体的にすること」③「困り感から授業を構成すること」など様々なことを学ぶことができました。先生(指導者)主体の授業になるのではなく、もっと子供(学習者)主体の授業ができるように、色々な先生の授業から学ばせていただき、今後の授業に活かしていきたいです。

授業参観の視点(3点)に沿ってグループで協議を行い、全体共有しました。(抜粋)

- 1 本単元で身に付けさせたい資質・能力を育成するための主体的・対話的な学習活動の設定
 - 学習規律の定着ができています。
 - 既習事項を確かめたり、角度の見当をつけさせたりしながら学習に入っているところがよかった。
 - ▼教師が主体となっていて、何のための対話をしているのか、目的を持って活動させたい。
 - ▼子どもの発言を止めずに話をさせたい。
 - ▼「説明をさせる」ことが本時のめあてなので、しっかり時間をとりたい。
 - ▼式を提示しておいて、説明させる展開でもよかった。
- 2 児童が本気になる問題や課題の工夫
 - 360度開くことのできる扇子を活用し、興味づける導入がよかった。
 - 体を使っての角度の感覚を持たせるところがよかった。
- 3 「数学的な見方・考え方」を働かせるための手立てや働きかけ
 - \textcircled{A} \textcircled{B} \textcircled{C} などの記号を用いて求める角度に着目させて説明させようとしていた。
 - ▼○直角のよさを活用させたい。180度、270度、360度の中からどれを活用するとよいのか考えさせ、 $180^\circ + \textcircled{O}$ 、 $360^\circ - \textcircled{O}$ に絞っていきたい。
 - ▼1人の児童の考えを取り上げたことで子どもの思考が狭くなってしまった。
 - ▼児童の困り感を引き出し、子どものやり取りを大切にしていきたい。
 - ▼解決方法が考えづらい児童への手立てが必要である。

津田先生の授業では、学習規律を定着させ、学習に向かう姿勢や態度をしっかりつくって授業をされていて、その基盤の上に資質・能力を育成していかなければならないと思いました。児童の考えを説明するところが、各種学力調査結果での課題でもあるため、授業場面でも自分の考えをノートに書くこと、考えを説明させることを大切にしたい授業づくりをしていきたいと思います。

☆児童ノートの交流☆

校内研修の中で、児童ノート(国語・算数)の交流をしました。各学級・学年がどのようにノート作りを行っているか共有することで、それぞれの学級のノートづくりに生かしていくことにつながると思います。タブレットとの併用についての課題はありますが、児童の思考が残るノートづくりを目指していきましょう。

